

---

# テニスの王子様 | B L

狂華乱草

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

テニスの王子様―BL

### 【コード】

N0002Y

### 【作者名】

狂華乱草

### 【あらすじ】

テニスの王子様

BL

短編集

## はじめに

オリキャラ

名前、天使 颯斗

読み、アマツカ ハヤト

性別、男

年齢、25歳

容姿、黒髪・長髪

色白・

黒縁メガネ

195センチ

性格、鬼畜・

クール・

DS

設定、

・青春学園中等部教師  
担当教科数学

・氷帝学園中等部教師  
担当教科国語

・立海大附属中学校教師  
担当教科英語

・四天王寺中学校  
担当教科理解（化学）

元プロテニスプレイヤー

登場人物（相手キャラ）

青学

手塚国光

海堂薫

氷帝

跡部景吾

宍戸亮

立海

柳蓮二

切原赤也

四天

忍足謙也

財前光

短編集

裏要素アリ  
死ネタアリ

恋に気づくまで―青学ver.―手塚

手塚side

「この度青春学園の  
新人教員になりました。  
天使颯斗です  
よろしくお願いします」

学年の集会で  
紹介された新しい教師

天使颯斗さん

長身に黒縁メガネ  
鋭くつり上がった目  
すっと通った鼻筋  
どこから見ても  
女子が好みそうな先生だ

案の定悲鳴に近い声を  
上げながら頬を染めている

担当教科は数学で  
3学年を教えるそうだ

次の時間は  
その天使先生の  
数学の授業だ

…  
…

「この式を  
解けるものはいるか？」

習っていたとはいえ  
難しい問題  
俺も解ける自信は  
あまりない

「…いないか？  
なら解説をする。  
よく聴いておけ」

すらすらと言葉を並べ  
解説をする天使先生  
理解しやすい解説で  
さっきの問題が解けそうだ

「…と言うわけだ

わかったか？

では、こちらの式を  
解いてみる。

……手塚出来るか？」

「はい」

指名をされ

少し驚いたが

黒板へ向かい式を解いた

「…正解だ。

よく理解した」

……ドキッ

天使先生が  
ふわりと微笑み  
俺を褒めた……

そのとき微かに  
高鳴った心臓

なんなのだろうか？

宿題のプリントが配られ  
授業は終わった

昼休み  
教室で弁当を食べていると  
校舎の近くにある  
大樹に天使先生が

枝に乗って読書をしていた

風になびいた髪が

真剣に本を読む先生を

引き立たせまた

心臓が高鳴った

これは…

いつたい…

鼓動が早くなる  
身体が熱くなる

この症状が

よくわからない

部活が終了してから

不二にでも相談しよう

思いながら授業に入った

部活

「三学年の新しい教員に

なつた天使颯斗です  
男子テニス部副顧問に  
なりましたので  
よろしくお願いします」

「はいっ  
よろしくお願いします」

「天使先生は  
テニスの経験が  
あるらしいからの  
アドバイスなど  
聴ける者は聴いたほうが  
いいじゃろう」

「はい」

「では解散  
各自練習に取りかかれ」

「はい!!」

青学ファイター！  
青学ファイター！

いつものかけ声を

聴きながら  
俺も練習をしていた

「手塚」

「！はい」

天使先生が

俺に声をかける

どことなく

嬉しさが込み上げる

「他とは比べものに

ならないくらい強いな

おまえは。」

「…え、あ、

ありがとうございます」

「俺は元プロなんだ

それくらいわかる

俺でもおまえに勝つには

一筋縄じゃあいかないな」苦笑をしながら

淡々と話している

そんな表情が

そんな仕草が

俺の胸を高鳴らす

ドクッ

ドクッ

ドクッ

「元プロなんですか？」

「まあな」

「時間が空いていらしたら  
打ちに行きませんか？」

っ！

何に誘っているんだ  
俺は…！

先生は忙しいだろう…！

「いいだろう」

俺の家来るか？

テニスコートあるぞ」

「…え？」

「なんだ？俺の家じゃ  
不満か？」

「い、いえ  
まさか本当に誘いを  
受け入れて下さるなんて  
思ってたなくて」

「おまえの誘いだからな」

ドクンッ

顔に熱が集まる  
いま真っ赤だろうな

あんなことを言っから…

俺は気づいた

天使先生に

恋をしている...

片思いからの一四天ver.一忍足

忍足side

アカン……本間にアカン！

先生やで！？

しかも男や！！

なんでこんな……

こんなに

ドキドキするんやっ

「進学や…いよいよ  
受験やな」

始業式

俺らは三年になる  
まあ中学最後やし  
楽しくやらな  
アカンっちゅー話や

ザアアアーツ

「……！」

大きな風が吹いた

桜の花びらが舞う

黒いスーツを身にまとった  
長髪で黒髪の男

その人が

風が舞った瞬間

美しく、尚且つ

綺麗に見えた

… なんかあの人

… … … めっちゃん … … … 美人や

男に美人なんて

変やけど

その人にはその言葉しか

思い浮かばなかった

式が始まって

新人の先生が紹介された

あの人…先生やったんか

前にでて

自己紹介をする

声に…言葉に…

俺はときめいた…

いや あのとぎ

すでに恋に

落ちとつたんやな

そう思う他なかった

紅色する顔

高鳴る胸

アカンアカン！

絶対アカン！

首を振って

否定しても仕切れんくて

いつしか先生を

愛おしく思って

見てるだけじゃ足らんくて

接近までした

「先生！ここ教えてや」

「またか忍足」

わからん問題みつけては

先生に教わって

テストでええ点とって

褒められにいたり

ずっとずっと

先生の そばにおった

「でこうなる  
わかったか？」

「おん！おおきに」

ああ

もう終わってもうた

「なあ先生？」

「なんだ？」

もう

気持ち押さえられへん

「俺な…先生が…」

好きやねん…」

教室には誰もおらんくて

静寂が俺らを飲み込む

「先生が…好きや」

ドクッ

ドクッ

ドクッ

鼓動がハンパなく高鳴る

顔も真っ赤なんやろな

先生…びっくりしとる

そりゃそうや

男からそれも生徒に

告られちゃ

引かれるんも

無理ないわ

「…忍足」

「あ！アカン  
ほな部活行くわ！」

先の言葉を恐れ

離れようとする俺

それを先生が

許すわけもなく

腕を掴まれた

「なんや先生」

「一方的に告って  
逃げるのか」

そういつて

先生は俺を

抱きしめた

「なっ…せんせ…ん！／／」

キスされた

深く深く

濃厚で甘いキス

「…ん…あん…ふう…／／」

「…はめ…」

…あいにく人を  
黙らせる術はこれしか  
知らなくてな」

意地悪な笑みをみせて

また俺を抱きしめる

「好きなのは

お前だけじゃないんだぜ」

「せん…せ／／」

窓から差し込む

夕日の光に照らされながら

また

キスをした

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0002y/>

---

テニスの王子様 | B L

2011年11月16日20時25分発行